

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

1996

12・25

No. 17

題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下



ボウリングランプを使ってストライクにチャレンジ

主 な 記 事

- 合 同 運 動 会.....総 裁 三笠宮寛仁親王殿下
- こ の 一 年.....理 事 板 山 賢 治
- デンマークの高齢者福祉に触れて.....友愛荘 藤 田 ユミ子



合同運動会

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛 仁 親 王

第二十二回合同運動会は、久方振りに「興奮」する事が出来ました。

中・高等科時代の「殺気立つ、緊張感溢るる雰囲気」とまでは行きませんでした、もしかしたら、久し振りに「血を見る事が出来るかもしれない」と、かつての「学習院の応援団団長兼ストリート・ファイター」は、わくわくして本番を待ちました。

ここ十年余りは、実行委の担当幹事にほとんどまかせきりで、決裁のみという形であった上に、二回連続で、手術の為に「欠席」を余儀無くされたので「運動会のあるべき姿の基本思想」を皆が忘れていたと感じましたので、二十二年振りに「実行委チーフ幹事」に自らを降格させて、零からの出発を試みました。

運動会を始めた当初の目的は、至極簡単な理由で「人間は誰でも日々身体を鍛えなければならぬ」「障害をどこかに持っている場合、健全なる者に伍して生きる為には、少なくとも三倍のトレーニングが必要である」という事から

でした。

小学校の時から運動会で「揉まれ」「鍛えられ」「実力差・能力差を実感させられ」それ故に、自然に自助努力による、地道な訓練の積み上げ以外に、体力・精神力の増強が不可能である事を、知るに至った私としては、友愛十字会・柏朋会の諸君を始めとする、世田谷区内の施設の人々すべてに、この「身体と心を鍛える事」の重要性を理解して戴く為に「手段」の一つとして「運動会」を立案しました。

計画の段階で、様々な障害を持つ人々、並びに各々の施設の職員の中から「怪我をした場合、誰が保証をしてくれるのか?」という質問が、澎湃として起りました。

正直な処、私は吃驚仰天しました。

長年運動部で、虚弱体質だった自分自身を改造する為に、一所懸命自らの意志で、鍛える事に専念してきた私にとって、上記の質問は、想像を遥かに越えた異次元のものでした。

そこで、考案されたのが、個々の組織(施設)

の長の命令で動く形ではなく、各々の組織から代表が、自主的に集まって合同で、企画立案をし、参加の可否も、一人ひとりの自由裁量にまかせる事を基本にした「合同運動会実行委員会」の設置でした。

嬉しい事は、この二十二年間、参加者は延べ人数で、八千名を下らないと思いますが、重大事故が一件も無い事です。

個々人の持つ「責任感」と「緊張感」が、傷害事故を未然に防いでいる訳で、反討論を強引に押し切り、継続して来た事の正しさを、今さらながら実感しています。

しかしながら、今回の反省点も又、沢山あった事は事実です。

高齢者に対する、走行距離の問題。

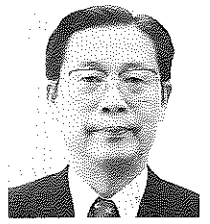
車イスの人々に対する、種目の配慮の欠如。

障害別の、ハンディキャップのつけ方の見直し。

激しい事をする以上、それに対応出来る、事前の訓練の重要性。

チーム編成に対する再考の余地等々、随分と反省させられました。

これらの諸点を十二分に、吟味し直して、来年度以後の運動会をより「本物」に近付ける為に、喧々囂々・侃々諤々の議論を繰り返して行く所存でありますので、読者の皆様の前向きな御意見をお待ちしております。



“この一年”

理事 板山賢治

いささか私事にわたるが、この一年をふりかえって編集者の依頼にこたえることとしたい。

平成八年八月八日、わたくしは、満七十歳になった。「八」の重なる佳い日に「古稀」を迎えたことになる。しかし、「人生八十年」時代の今は、女性に比べて短命という男性でも、平均寿命は、七十八歳。七十歳までは、十人中の八・七人が生き、生まれた者の半数は、ほぼ八十まで生きるといふ。今や「七十歳」は「稀」ではなく、「毘寿」「傘寿」「米寿」「卒寿」「白寿」「百歳」へと続く「永い老後」の入り口ととらえるべきであろう。

そして、この秋、図らずも叙勲の栄に浴したのである。

永年にわたる社会福祉への貢献ということだが、最近の厚生行政は、冬の時代にあり、若干の危懼も感じていたところ幸い、去る十一月十一日、厚生大臣より伝達を受け、皇居で天皇陛下にご拝謁を賜わった。

さらに、この春、郷里山梨の社会福祉法人の

理事長を仰せつけられることとなった。

思えば、昭和二十四年春、甲府の中学校教師から日本社会事業学校に転じ、そして厚生省社会局へとこの五十年近く郷里にはすっかりご無沙汰していたことになる。他の仕事もあるからと固辞したが、この頃は、月に一、二度故郷に足を運んでいる。

百五十人余の老人が利用する特別養護老人ホーム仁生園は、八ヶ岳山麓海拔千メートルにある。痴呆棟、シヨートステイ、デイサービス、在宅介護支援センターなどの機能も持ち、五十名をこえる職員は、半数以上が介護福祉士などのライセンスを有している。二十四年の歳月を経たこともあり入所者の高齢化、重度化が進み、老朽、つぎはぎ施設の再建問題とあわせての課題となっている。

* *

こうした意義深い年を迎えられたのも、ひとえに健康で古稀まで生きられたからだと思う。

実は、三十年前、わたくしは、「再起不能」と

いわれたことがある。男の厄年という四十歳の

頃、宮崎県国民年金課長時代の四十一年春。人

間ドックで「肝機能・要精密検査」となり、七

月下旬入院。「GOT・GPT」が五百台から

二百台になったものの病名も判然としないまま

に東京第一病院へ。「面会禁止」「再起不能」と

いわれたが幸い翌年三月無事退院となった。そ

の日、主治医の下条先生から受けた「五つの訓

戒」は私のその後の生き方の指針になっている。

一つ。あなたの肝機能は、健康人の六〇%程

度の能力であることを銘記して生活すること。

二つ。アルコールや刺激物は、極力控えるよ

うに。但し、家で飲むのはよい。

三つ。仕事、マージャン等の徹夜、疲労の持

ちこしは、ダメ。

四つ。食事が大切。良質な蛋白質、ビタミン

を多くとる。動物性脂肪は、ほどほどに。

五つ。適度の運動を。肥満とストレスはダメ。

「再起不能」といわれたわたくしが、古稀を

迎え、思い出に残る幸せを味わえるのもひとえ

によき主治医に出合い、「五訓」を守りうる職

場に恵まれ、家族のよき支えがあつたからとし

きりに思うこの頃である。

(日本障害者リハビリテーション協会 副会長)

営業専任指導員を経験して

友愛園 職業指導員 緑川 仁

身障授産施設は、一般企業に就労もしくは自営等で自活させることを目的としています。従って、職業指導員は、利用者の職業能力を向上させるための職業技術指導と、作業確保が一番重要になっています。作業量が減少すれば、入所者の職業訓練も停滞しますので、受注確保のために各種企業にご協力をお願いしています。しかし待っているのは、企業からの受注は期待出来ません。そこで利用者が毎日安心して職業機能訓練に適した作業と作業量を確保するための営業活動が必要なのです。現在私は、重度身体障害者授産施設友愛園の職業指導を担当していますが、過去八年間、営業専任指導員として経験したことを振り返ってみたいと思います。営業活動の目的は、各授産科の作業量の確保でした。訪問先企業の選定には、各地域の新聞の求人チラシを集めたり、各職業安定所に出向き、求人票を調べたりして授産作業に適していると思われる企業を選び電話又は飛び込み訪問をしました。

この場合、求人の代わりに当施設の作業として受注しようというのですから、早くしないと遅れを取ってしまいます。区役所や市役所で頂いた商工会名簿や電話帳から、まず電話による確認を行ない訪問先リストを作成しました。いざ企業に訪問して、社会福祉法人友愛十字会の文字の入った名刺を差し出しますと、先方の担当者は身障授産施設ということで戸惑うことが多いのです。なぜなら、社会福祉施設は全て「老人ホーム」と思っているようなのです。従って、訪問先での一番目の営業活動は、身障授産施設の事業説明でした。早々に門前払いを受けることも度々ありましたが、関心を持って聞いていただける場合は受注の可能性が大なのです。新聞の求人広告からの営業活動は成果がすぐ出るのですが、内職の仕事の場合が多く、作業単価は安過ぎたり、長期間継続して受注するには、躊躇するものが多い状況でした。商工会名簿や電話帳からピックアップした企業への営業活動は、電話連絡をしてから訪問することもあり、

門前払いもなく福祉施設を理解して親切に対応して頂けたように思います。中には関連を持つ企業リストの提供や情報の入手方法を紹介して頂いたり、発注の可能性のある知り合いの企業の担当者を教えて頂いたりしました。その結果、受注見込みのある企業が飛躍的に増加しましたので、このルートをたどる活動を始めることにしました。ルート営業活動では、お願いした企業が安定した作業量を確保し、障害のある人達に適した作業を選び、その上現に取引きしている協力業者との調整などを行なっていただくため、一件受注するのに時間がかかるようになりましたが、大手企業より直接取引きできる取引



先件数が次第に増え、内職的作業から脱皮できる兆しが見えてきました。しかし、この間にバブル崩壊による産業経済界不況の影響に直面し、中小企業からの受注が減少するケースが続出しましたが、アンリツ株式会社、株式会社京浜精機製作所、株式会社アイシー、株式会社ケアコム、株式会社奈良電機研究所、株式会社デュプロ、など、各社のご協力とご指導を頂き安定した作業量の受注が確保でき、大変感謝しております。

次に自主製品の販売に着手しました。販売製品はビニール加工製品と宣伝用ゴム風船で、授産作業で完成した製品を直接ユーザーに販売するものです。営業活動の事前調査で、東京二十



三区や市等で保険証カバー、年金証書袋、印鑑登録入れなどのビニール製品を、また、各イベント用に宣伝用ゴム風船を業者から購入していることがわかったので、早速営業活動を開始しました。まず、物品販売の手続きとして、指名参加願い届書の提出を関係職員で手分けをして行なったのですが、どんなに待っても注文が来ないのです。窓口で担当職員に尋ねたところ、一年間は営業活動して実績を作らないと入札に参加できないことを教えられ、慌てて全職業指導員で、区や市役所の関係部署に名刺の投函活動を行いました。また、当施設に来館される各官庁をはじめ多くの方々にも自主製品のPRを行ないました。このような営業活動が実を結び待望の保険証カバーの入札依頼をいただくことができるようになりました。他業者との価格競争でも、作業の機械化等により安く大量生産が可能になりましたので、顧客にもご理解を得て受注することができました。宣伝用ゴム風船は、カタログ配布活動で民間企業からも少量ですがコンスタントに受注できるようになりました。

営業活動を通じて印象に残る出来事の一つは、いくら営業活動にしても反応がない区・市役所に対して、直訴窓口のある区長・市長へ身障授産施設の自主製品購入のお願い書を投函したと

ころ、すぐに効果が現われ担当者より入札参加の呼び出しがあり大量の受注が決まったことです。二つ目は、以前宣伝用ゴム風船の取引きのあった広告代理店の引き戻しに四年間の悪戦苦闘を強いられた苦い経験です。

営業専任指導員を命じられてからの八年間を振り返ると、足で戦った「汗と涙と喜び」であり、営業活動を通じて多くの人と接することの大切さや、多くの知恵を学ぶことができました。これからは、発注先企業の信頼を得て、いつまでもお付き合いしていただけるように利用者、指導員が力を合わせて立派な製品を作り上げる努力をしていくことが大切であると感じています。



福祉ホームに思うこと

コーポ友愛寮母 小野悦子

コーポ友愛も、開所後五年余が経過しました。

開所当時の空室は二年余で満室となり、以後平成八年七月までは定員を充足するという状況でした。最近では、利用者の自立への努力が結実し、都営住宅等へ転居される方が多くなり、欠員が生じ始めましたので、世田谷区内の福祉事務所を中心に、利用希望者の有無についての問い合わせを積極的に展開しています。

さて、コーポ友愛では、ホーム長が事ある毎に言われる「コーポ友愛入居者は、すべて家族と同様であり、皆仲良く、相互協力して楽しく生活しましょう。」をモットーに、現在、一般企業に勤務している人、友愛十字会内の授産施設や他の作業所に通所している人及び就職活動中の人等、いろいろな方が、自立や社会復帰を目指して生活しています。

皆さんは、それぞれ一生懸命に目標に向かって歩んでいます。ここでは、自立への努力をし、目標を達成された一組のご夫妻を紹介したいと思います。

ご夫妻は、入居時から共に自立に向けて、福祉事務所や役所の関係機関等に、積極的に働き掛けを行い、方々から情報を入手し、社会資源を可能な限り活用していました。そして、収集した資料を吟味し、ご夫婦で検討を繰り返した上で、職員に質問、相談を持ちかける等、自分たちに何が必要なのかをしっかりと把握し、目標を持って緻密な生活設計を立て、一步一步自立に向かって前進していました。また、ご夫妻は、毎日の生活でも、他の入居者への配慮と愛情溢れる対応が随所に見られ、どなたからも好感を持たれていました。例えば、休日等で職員がいない時には進んで共用部分をお掃除して下さったり、他の入居者の話し相手や、時には相談相手になったりと入居者間の中心となつて、何事にも積極的に協力的な姿勢を変えらるることのない模範的な生活をされていました。そして、ついに今年の一月、都営住宅入居という初期の目的を達成され、意気揚々と社会復帰されました。

当时を振り返り、晴れがましいご夫妻の姿を

見て、盛大な拍手と感謝の気持ちちはち切れそうになるのを抑えて見送ったあの日のことが、今もって脳裏に蘇ってきます。

しかし、入居者全員がこのケースのような方ばかりではありません。自分らしい生活を大切にしながら、どうしたらコーポ友愛入居者としての集団生活を快適に、有意義に過ごせるか、また、入居中の短い期間に、自分の将来を考えるとどのように自立するか、迷い、悩み、将来に対する不安が一杯の方もいらっしゃいます。

そこで、私たち職員は、入居者、又は関係者と情報収集や意見交換を重ね、入居者の抱える諸々の問題を整理すると共に、大いなる可能性と一緒に模索する必要があると考えます。そして、入居者自身が最終的な自己決定を行い、コーポ友愛を巣立っていただければ幸いです。また、コーポ友愛での生活が、自立への道程に役立つ価値のある機会であつたと思つていただけるよう、私たち職員は、入居者のニーズの充足と個々の希望に即した社会復帰の実現に向けて、専門性を高め、心のこもったサービスを提供しなければなりません。今後は更に精進を重ね、一歩ずつでも前進したいと願っています。

新聞活動を通して

友愛デイスサービスセンター

介助員 田 中正 行

現在、友愛デイでは、オリジナルの「友愛デイだより」を約二カ月に一回のペースで発行しています。内容は、主に当施設の事業紹介、レク活動、訓練活動、個別活動、行事、個々の身近な出来事等が中心となっています。

友愛デイでは企画（何を載せるか、どの写真を使うか、タイトルは、レイアウトは、発刊日は等）から始まり、発行に至るまでの作業工程を全て利用者にまかせています。職員は、仕上げの段階で、わずかに援助するのみです。

さて、この「友愛デイだより」は、課題別活動の一環として、Iグループ（中途障害者七名）によって作成されています。新聞作成までの経緯は、毎日、朝の会で唄う歌集づくりが発端になっています。当初職員が作成していましたが、「いつそのこと、利用者の方に作成してもらってはどうか」との提案がきっかけで課題別活動として導入され、活動はワープロ班と軽作業班に分かれ開始しました。

軽作業（表紙のイラスト）は思ったより順調

な滑り出しでしたが、ワープロ班は、一人ひとり

ペースもバラバラといった状況でした。しかし、

それもほんの数カ月で見える内にワープロ操

作技術も上達し、さらに数カ月後には、殆どの

利用者が安定したスピードで打ち込むことが可

能になり、文字も内容量によって打ち終えるま

での予想が立てられるほどになりました。そし

て「この活動で築いてきた利用者の能力を、こ

のまま歌集だけに、とどめておくのはもったい

ない、もっと何かいろんなものを作れないもの

か？」との意見に「それでは、ステップアップ

一して、新聞のようなものを作成しては」、これ

が新聞係の活動となったのです。そして新聞係

の具体的な目標として、

一 利用者の手によって作成された新聞を他

機関、施設に配布することを通して社会参加へ

の意識の向上を図る。

二 ワープロ技術及び自己能力の向上を図る

との二つの目標を掲げてのスタートでした。

なにはともあれとにかく実施してみなければ

ということ、一、企画会議 二、外部への取材 三、原稿依頼 四、イラスト等の順番で進めていくことになり、全員興味津津といったところでした。

第一段階の企画会議では予想もしていないことが起こったのです。一人一人が個性的なこともあつてか、皆、言いたいことを、好き放題言ってきたのです。そのいくつかをご紹介します。 「コーヒーが好きだから、喫茶店に取材にノ」、 「会議なんかよりワープロ打ちがいい」、時には激論にもなりましたが、なんとか企画内容をまとめたの滑り出しでした。取材班は砧にある砧図書館の喫茶桜ん房（障害者の方のみで経営されているお店）へ、一方、ワープロ班は依頼した原稿を回収し、四台のワープロで打ち込みに着手。軽作業班は原稿の内容に合ったイラストづくりにとりかかる。この三つの作業スタンスでようやく発刊五日前を迎えました。気になる完成度は一〇パーセント強でした。理由としては、ワープロ班の作業ペースダウンでした。それもそのはずで、今まで漢字のほとんどなかった単純な歌を打ち込んでいたものが、急に難しい漢字や、ややこしいカギカッコだらけの原稿に変わったからです。結局、前日まで追われながらの発刊となりました。しかしどん

な形にせよ、無事に第一号を発刊できた喜びを、全員で感じました。そして三・四号を発刊するころには、利用者の方々も徐々にペースをつかみメキメキと作業をこなすほどになっていきました。さらに半年が経つとワープロ班の方々が、自分のペース、或いは癖を理解し自分なりのやり方を見つけ、スピードは当初の約二倍の早さにまでなっていたのです。そして新たな発見は、企画会議の重要性でした。日常の活動の中での会話は、単なる会話にすぎないのです。しかし、企画会議という時間枠をとって「自分の意見を発言する場」として設けているこの会議がもたらした大きな力を今でも実感いたします。なぜならば、普段あまりしゃべらない方、意見があっても言わない方が、この場では、自分の意見として「えっ」と思われるような発言が飛び交うのです。時には、五十年の自分の苦難の生い立ちや、若い職員に対していろいろと学ばせてくれたり、様々な発見もありました。

このようないろいろな出来事の中、早一年が経過し、ようやく新聞活動も軌道に乗ってきました。一年を振り返った時、この「友愛デイだより」に対して愛読者からの意見もたくさんいただきました。そこで新たな年度を迎えるにあたり、ご意見、ご感想をもとに早速企画会議を

開き、問題点、改善案を提出し合い、「温かみのある読み易いものへ」という案を中心に検討した結果、まず写真欄を今までの三倍に拡大する。書体をポップ文字に変更する。記事を減らし、全体に余裕をもたせ見易く、一枚は軽作業の枠として、ワイルドなイラストを導入し、温かみを全面に押し出すということに決定しました。そして、少しでも自分たちの力ということでレイアウト、タイトル会議、更に自らの原稿づくりへと大きく飛躍しました。しかし、ここで問題が起きてしまったのです。あくまでも自分たちの力で作成してもらおうという方針で、発刊日をもフリーにしたことで一時的に気のゆるみが見られ、発行が遅れてしまったのです。そんな状況の中で、あることに気がつきました。Iグループの方々は確かに新聞作りに関心をもちはじめ、自分の作業にも責任をもって行っていたのですが、係としての自覚はあるのだろうか……。もし、係として自覚があるとしたら、三ヵ月も発刊できなかったことに対して、なにかしら、申し出て来てでもいいはずなのにと。残念なこと、全体的に、「おれは、この原稿を打てばいい」「最後は職員が修正するから」と、つまり「自分に回ってきた作業だけこなせばいい」といった感じでした。組織として全員が話し合い、

そこで決めた一つの目標に対して組織が一体となって進まなければならないことを企画会議に提案し、検討した結果「全体及び各自の具体的なスケジュールを組み、それに沿って作業を進める」との方針が決まったことで作業に取り組む姿勢も変わり、更にグループ意識にも変化が見られるようになりました。遅れをとっていた軽作業班の作業をワープロ班の方々が快く引き受けて下さり全員で仕上げました。そして第十六号は、なんと、わずか一ヵ月で発刊することができたのです。まさに個々の自覚の現れだと思えます。その自覚が組織として初めて一体となったと言えます。この活動を通して本当にいろいろ勉強をさせられました。



デンマークの高齢者福祉に触れて

友愛荘 寮母 藤田 ユミ子

●はじめに

昨年秋二週間にわたって東京都福祉局によって実施された「平成七年度社会福祉入所施設職員海外派遣研修」に参加させていただきました。参加者は二十二名の施設職員で、研修先はデンマーク、ドイツの二カ国でした。デンマークではオーデンセ市を中心に、日欧文化交流学院、老人総合センター、デイセンター、介護職員養成校、高齢者共同住宅、一般家庭（ホームステイ）等を訪問、研修致しました。ドイツでは、ツェレ市を中心に総合福祉施設、老人ホーム、ベルゲン・ベルゼン旧収容所跡地等で研修しました。

以上の中から特別養護老人ホーム（特養）の寮母として、最も関心の高いデンマークのプライエム（日本の特養に相当）を中心に、日本の状況を交えながら報告してみたいと思います。

●デンマークの特養

デンマークでは、スウェーデンに先立って脱施

設化が進められ、一九八七年以降特養の新設は禁止されています。その理由としてデンマーク

高齢者福祉の三原則（①生活の継続の尊重 ②自己決定の尊重 ③残存機能の活用）の実現のために施設より在宅の方が有効であること、またヘルパーや看護婦の派遣、補助器具の貸出し、住宅改造、給食サービス等を実施しても、特養より在宅の方が経費節減になることが挙げられています。そうはいっても、デンマーク全

国のプライエム入所定員は約四万人で、六十五歳以上人口の五%に当たります。日本の場合は約一%であり、特養が大幅に不足しており今後増設が必要な状況にあるようです。

●マリーンローン プライエムの概要

ここでは私達が訪問したマリーンローンというプライエムを取り上げ、紹介してみます。

マリーンローン プライエムは、保護住宅、デイケアセンター、リハビリセンター等が併設された老人総合センターに属している特養です。

入所は判定委員会を通過した人達であり、できるだけ在宅生活を長くするという国の政策が実施されているため、かなりの重介護を要する人が多く、平均年齢も八十歳以上で何人かの入所者が自立しているに過ぎないといった状況です。定員は五十四名で二つの部門に分かれ、一部門に介護スタッフ十五〜十八名（介護福祉士、介護福祉助手、看護婦、運搬人）、その他に常時、介護福祉士や看護婦の実習生が十二、三名入っています。

●処遇について

入所者の生活にかかわる基本スタッフは介護者と看護婦であり、コンタクトパーソンシステムという方法をとっています。それは一名の介護者が二、三名の入所者のコンタクトパーソンになり、身体面の清潔・整容、心のケア、掃除、買い物等日中の全てのケアに当たるのです。夜間はニードも少ないので、グループ毎にケアすることになっています。

ケース記録は基本的には私達が記入しているものと大差はないようですが、コンタクトパーソンに限らず、気づいた事があつたら、他の人も書き込む。本人の所に保管されているので、散歩に出たい等のニードがあつた場合記入して

おくと、家族が来てそれを読み、対応してくれることもあるようです。

半年に一回全入所者個々の処遇の倫理性について話合いの時をもち、毎日の連絡も密にして（週に一度はPT、OTも参加する）、適切な処遇を心がけています。

重度の入所者は多いが、日中寝たきり者はいません。カフェテリア（談話室風の暖かい雰囲気の一部屋）で、入所者同志の語らい、スタッフとビンゴゲームを楽しむ、映画やビデオを見る等して過ごすことが多い。「重度の人の中にはそばに誰かがいるだけで過ごせる人もいる。今日は見学者（私達のこと）も目の楽しみであり、色んな人が行き交うのを見て楽しんでいる。」とは、私達が見学した日のダイアナ施設長の言でした。

痴呆症の入所者のために特別に分離された場所が設けられ、六、八名の方が、昼は四名、夜は二名のスタッフに見守られています。痴呆症の高齢者は定まった枠の中で過ごし、同じ人が介護に当たると落ち着きを取り戻し、投薬など也不要になると施設長は話されました。痴呆性老人の介護には大変苦勞している私達、是非見学させてほしいのですが、彼らの静かな生活を乱すという理由で、それはかなえられませ

んでした。

●環境・設備について

各自、寝室、居間、トイレ・浴室からなる約三十五㎡の十分広い個室で生活しており、各々使い慣れた家具を持ち込み、壁には心安らぐ絵や家族の写真が貼られ、陶器の装飾品や花も飾られていました。北欧の国の特養の個室ということで、よく写真で見たり聞いたりしていた光景でしたが、実際に目の当たりにして一瞬当惑の多人数部屋が浮かび、溜め息が出る思いがしました。同時にプライバシーは勿論、個々の生活の場がないことの異常さを改めて考えさせられました。

幅の広い廊下の両サイドに個室があり、廊下の中央部分にはリネンやその他の介護用品置き場が目障りでなく設けられているのを見て、介護者の動線が十分配慮され、機能的であるのに感心しました。

更に、廊下や談話室の天井に近い所数カ所に青字と赤字の部屋番号表示のランプが取り付けられていました。青字点滅は職員が入っている居室の番号を知らせ、赤字の点滅は入所者よりのコールを知らせているとのこと。介護者の動きや入所者のニーズを知る上での行き届いた工

夫がなされていました。

●おわりに

デンマーク高齢福祉の実態に触れて感動し、考えさせられ、学ぶことは実に多かった。先にも触れたデンマーク高齢者福祉の三原則はそのまま我が国の「サービスマーク」の基本理念ともなっています。その評価項目を初めて見た時求められる水準の高さに戸惑いを感じましたが、今回の研修によってかなり高い水準まで達成されているデンマークの現実に接し、具体的にイメージすることが可能になりました。

また、ここには書き尽くせませんでした。介護面の教育体系の一本化や、家庭での終末医療に対する手当等、デンマークでは先進福祉国家なるが故に、絶えず検討や試みがなされており、この国から学ぶことは多く深いものがありました。我が国は高齢福祉において途上にあり、未だの感が強いが、それでも超高齢社会の到来を前に介護保険も導入されようとしています。多くの課題を前にたじろぐ思いもありますが、与えられた場で一步を踏み出す努力を惜しんではならないと思います。

終わりに、海外に派遣して下さいました関係各位のご尽力に心より感謝申し上げます。

投稿

私の娘時代

友愛荘入所者

長谷川 う 免(95歳)

私は明治四十三年東京の板橋区港町で生まれました。東京のど真ん中にあたります。両親は畳屋で畳はもちろん、琉球、薄べりなどを作りとても働き者でした。当時はそれなりの苦労はあったようですが、私達子供にはお金の心配もなく、穏やかに育ててくれました。学校は鉄砲州小学校に入学、髪はお下げをして袴をはいて通ったものです。私は性格はおとなしい方でしたが、歴史の大好きな女の子で、その時間になるのが楽しみです。暮しも向こう三軒両隣り、今振り返ると明治の時代が一番、呑気で楽しかったように思う。暮しも向こう三軒両隣り、本当に仲良く米がなくなれば誰かが持つて来てくれたり、助け合っていた。店の払いも晦日に一年分をまとめて支払って、お雑煮を食べて正月を迎えた。もし払えない人がいても、以外と

平気で呑気にかまえておられたような時代でした。明治天皇のことも良く覚えています。毎朝馬で散歩するお姿をよく見かけました。その後、天皇がお体を患った時などは砂利道に膝まづいて祈ったものです。娘時代になると戦争・震災などにあい苦勞しましたが、私にもいくつかの縁談がありました。その一つに銀座の絨毯屋からの嫁の申し出がありました。両親が当時のことだから、絨毯など敷く家がないと将来のことを心配したのでしょうか。反対し断ったこともありましたが、その後、縁があつて長岡鶴三郎中将の甥にあたる人の所に嫁ぎました。生活は豊かな方でお金には困ったこともなく贅沢な暮らしをさせてくれたので、親、兄弟などを随分助けてあげました。その後、長い間には様々なことがあり、友人、知人とも別れたり、両親、兄弟等も亡くなったりして当時はとても淋しい日々を送りました。でも今ではこのようなホームに入れて頂き皆さんに良くしてもらい、本当に有難く淋しいと思ったことは一度もありません。そしてこんなに長生きさせて頂けたのもホームにいたお陰と感謝しています。

母と私

友愛荘入所者

川端マズ子さん長女

佐藤利佳

今から二年程前、母と私は親子ゲンカの真っ最中でした。

当時二十六歳の私にとって、母に少し痴呆が始まっていることを素直に受け入れることが、とても出来ませんでした。私の勝手なジレンマの為に、母につらくあたってしまったことを思い出します。本当に、悪いことをしてしまいました。町田市高齢者福祉課の方、ボランティアの方、鶴川サナトリウムの先生、多くの方々のお力を頂きながら、友愛荘に入所させて頂く運びとなりました。本当に、ありがとうございます。

母と友愛荘との生活は、早一年が過ぎます。行事に参加することが苦手だった母が、皆さんと一緒にクラブ活動に参加し、また外出もして、楽しそうに話している姿は、私も大変うれしいです。

母と私は、もちろん親子ゲンカもなくなり、母の顔には、穏やかさと笑顔が戻り、私も母に

やさしく接することが、出来るようになりました。母と私が、このように明るくなれましたのも、日々、お世話になっております友愛荘の職員の方々のお陰です。本当に、ありがとうございます。

今後とも、宜しくお願い致します。

四十五年目の同窓会

友愛荘 寮母

渡辺 タカ子



昨年の十二月に故郷である福島のホテルで、中学時代の同窓会があり一泊して来ました。卒業後一緒に高校へ行った者や、それぞれの道に進み四十五年の歳月が流れて初めての同窓会でした。通知を頂き嬉しいようでもあり、恥ずかしくもあり、一人一人の顔が浮かび、出席するかしら、どんな洋服を着たらスリムに見えるかしら等と思いを巡らせ、楽しみに当日を迎えました。ホテルには一番に着き次々と到着した友との対面、かすかな面影をたよりに「誰々さん？」と尋ねると「アラ、タカ子さん」と言った具合。五十四名の出席者中、半数近くはまったくわからない有様でした。思春期で別れ一挙に六十歳の初老期に変容した姿での再会は、浦島太郎からSF映画の一場面を見ているような光景でした。いよいよ酒宴が始まり、一人一人近況報告、私は老人ホームに勤めていると紹介すると、どちらが老人だか区別がつくのか等冷やかされました。飲むほどに童心に返り、朝方

まで飲みながら語り合い、本当に楽しい同窓会でした。翌日は、八十七歳になる母のいる実家に行き親孝行の真似をして来ました。母は「いつまで泊まれるの」と何度も繰り返し聞き、喜んでくれました。最近少し痴呆が現われ兄嫁に苦勞をかけているようです。そんな母にやさしく尽くしてくれる義姉の姿は、今、社会問題になっている在宅での介護者の立場そのままで、このことを他の兄妹に理解させる務めは、寮母職である私の使命だと、母の現状をみて知らされました。友愛荘に勤めて四月でまる十三年になります。人生の大先輩である利用者そして上司、同僚と多才な皆さんに教えて頂き、この十三年は私にとって二十年にも匹敵するほど実り多く、豊かな人生を送れたと感謝しております。今後共よろしく御指導をお願い致します。



善意のかずかず

次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者を
ご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

(寄付金)

平成7.10.11.8.9.30
敬称略 あいうえお順

○世田谷関係

新井電気、新井栄一、安藤賢一、
青い鳥保育園理事長平岩カノ、阿
川美実、朝日管財(株)代表取締役井
上雅雄、井上洋品店、今井勇、石
井アサ子、石川量店、井山建設(株)
代表取締役井山由三、石神俊江、
石井洋一、(有)石井精肉店代表取締役
役石井巖、石澤永吉、魚久、上間
たつの、円光寺内藤壽昭、荏原流
れ太鼓びびき会会長岸野勉、小野
坂豆腐店小野坂義弘、岡村直美、
(株)大蔵自動車商会代表取締役長島
英行、大蔵住宅自治会、大蔵東部
町会、大蔵電気、大村電気商会、
小川芳子、小方つね、大蔵湯、お
しゃれ床やボヌール、カナリヤ俳

句会、貝塚富江、関東ボウリング

場協会、(株)ガードインフォメーション

サービス代表取締役鈴木弘毅、

カナイ屋精肉店、河島サト、神谷

喜八郎、菓子庵青柳、砧総合支所

長能川浩俊、砧出張所長和田武夫、

砧教会教会学校、砧町会会長竹

内淳夫、砧町自治会長石澤永吉、

砧太鼓同好会、キヌタ書道会菊地

偉雄、熊谷良雄、クリーニングカ

シマ、倉橋宏明、健康科学学園、

故須田開代子ボウリング合同葬実

行委員会、厚生車輛福祉協会会長

山根明、光寿会会長小池鎮男、小

平昭雄、(有)ゴック濱中伸昭、佐々

木良一、昭和女子大、昭和女子大

附属昭和中等学校生徒会、渋谷

谷区長小倉基、自転車いしい、清

水秀雄、島倉信二、白川富子、淑

徳短期大学、ジャパンレディスボ

ウリングクラブ、J A千歳婦人部、

鈴木淑子、生活クラブ生活協同組

合、世田谷婦人大学学長本多シズ

エ、世田谷区高齢者クラブ連合会

ボランティア活動委員会会長石田

喜好、世田谷通り砧商店街振興組

合代表理事神保三郎、世田谷区身

体障害者福祉協会会長飛田享、世

田谷区I K K福祉協会会長小室昇

太、世田谷区高齢対策部高齢者計

画課長、祖師谷南商店街振興組合

理事長菅野友情、高橋啓子、第一

大蔵ストアー柳屋商店、太丸屋衣

料株式会社、大東学園、田崎ユキ

塚原洋子、綱島昭夫、寺重タツヨ、

同業信用金庫世田谷支店長佐々木

健太郎、東京都用賀技能開発学院

長柳原旭、東急弘潤会、東京福祉

専門学校、(株)東京都栄養士会、内

藤千紗子、内藤厚徳、奈良友雄、

南部自動車(株)代表取締役山本晴之

介、長崎愛子、日本女子大学、日

本放送協会放送技術研究所、日本

福祉教育専門学校、日化ゴム工業

(株)会長笠原徳太郎、畑中克仁、橋

本よしの、P A Lビジネス専門学

校、(有)ヒロ代表取締役雨宮弘和、

ピューティーサロン真、日笠政司、

佛教大学通信教育部、文京福祉専

門学校、藤蔭静照、(有)藤野製麺所、

辺見栄次郎、ヘアーサロンスター

ト、細谷まち子、星野商店、(株)丸

山工務店、松本博之、松下文雄、牧

野和子、増田久代、三ツ和会有志、

三戸部清、森政子、山下英子、ヤ

マブン青果、焼肉梨光苑、やぶ久、

豊不動産、横山青果店、リビング

タカハシ、和光市社会福祉協議会

○東京都ろうあ者更生寮

(有)飯田製作所、志村城山町会、石
川正、古幡隆、村上製本所、武蔵
野ランドリー、(有)八百幹

○友愛荘

相田洋子、石澤恭子、稲垣純、小
野田まゆみ、河合源策、国井元秀、
小磯明美他、佐藤芳子、佐藤由孝、
清水達三、菅野昭正、図師寿会、図
師町内会、図師馬廐講中、清楽会、
(学)玉川学園、鶴川サナトリウム病
院、(株)東京共同募金会、東京紀尾
井町ライオンズクラブ、ニコニコ
シルバー会、野口シジヨ、橋本好

明、花扇美永、羽生隆雄、(株)福音会、ぶどうの会、本田紀子、松葉の会、山田トモ子、友愛荘後援会

(寄附物品)

平成7.10.1~8.9.30
敬称略 あいうえお順

○世田谷関係

(株)アイ・ヴィー・シート、囲碁・将棋サロン大沢博、伊藤洋、石田潮司郎商店、江口博之、エステイローダー(株)オリジンズ事業部、カトリック成城教会福祉部、カーソルマーケットティンググループジャパン(株)、砧地区社会福祉協議会、キリンビール(株)、久保村方光、久保田加津子、グループ71、佐賀西部コロニー多良岳作業所、世田谷区菊花展実行委員会、大松ビニール工業、(有)T & A、東京都食肉環境衛生同業組合、東京都共同募金会、東京都職員信用組合、東京都善意銀行、東京麵類協同組合、中村美代子、日本コカ・コーラ(株)、日本たばこ産業(株)、日化ゴム工業(株)、日清製粉(株)宣伝部、野田あつ子、野川康昌、浜木綿子、富士通労働組合本社支部、フラワーシップ加盟店会、三菱電

機(株)、宮島春三、米屋(株)、若葉会

○東京都ろうあ者更生寮

酒井精機(株)

○友愛荘

石田潮司郎商店、キリンビール(株)、清野安吉、佐藤博他、東京都食肉環境衛生同業組合、東急百貨店、東京麵協同組合、日本たばこ産業(株)、ふるさと渋谷青少年社会参加推進委員会、安田信託銀行、米屋(株)

(慰問)

平成7.10.1~8.9.30

○世田谷関係

演芸ばらえてい、大蔵ふたば保育園、ガールスカウト東京61団、砧教会教会学校、成城警察署、日本歌謡育成協会、人形劇スーパの会、ひまわり会、平岡会、宮島春三、目黒星美学園小学部、(学)山野学苑、若葉会

○友愛荘

小山田桜台幼稚園、青葉会、エジプト会、桜美林幼稚園、コール忠

生、図師熊野神社、太鼓同好会、

東京紀尾井町ライオンズクラブ、成瀬マンドリーノ、ニコニコシルバー会、美永会、ボーイスカウト町田第三団、松葉の会、みのり幼稚園、山吹会

(招待)

平成7.10.1~8.9.30

○世田谷関係

朝日新聞東京厚生文化事業団(敬老号一泊旅行)、(株)エミー・インタナショナル・ミュージック(ポリシヨイサーカス)、オープン・セサミ(クラウンのいる風景)、世田谷区(いきいき世田谷区文化祭)、テレビ東京事業局「ファンタジー」ミュージカルサーカス、東京都(高齢者スポーツ大会)、中牟田幸江(ソプラノリサイタル)、(財)日本相撲協会(大相撲有明場所)、(財)日本バレエボール協会(95ワールドカップ)、ミズノ(株)(ミュージカル「ダンサー」)、友愛十字会後援会(歌謡チャリティショー)

○東京都ろうあ者更生寮

(株)エミー・インタナショナル・アート・ミュージック・中牟田幸江、木下大サーカス後援事務局、キャラクターエイド事務局、(財)日本バレエボール協会

ご助成御礼

平成7年4月1日から平成8年

9月30日までに、世田谷更生館、

友愛園、コーポ友愛、友愛荘の入所者処遇向上を図るための設備として、次のご助成をいただきました。

各団体、個人の皆様に心から御礼を申し上げます。

○全国労働者共済生活共同組合

連合会様

授産作業用車輜

1台

○電気通信共済会様

授産作業用車輜

1台

○清水基金様

授産ロータリーウエルダー

1台

○東京都共同募金会様

高齢者移送用車輜

1台

洗濯機

1台

○佐々木記念障害者援助基金様

鏡

6枚

洗濯機 1台

乾燥機 1台

冷蔵庫 1台

○宮川高子記念障害者福祉基金様

授産作業用車輛 1台

○公益信託障害者愛の福祉基金様

授産デジタル切断機 1台

友愛十字会主要行事

平成7年 10・1・8・9・30

平成7年

10・1 ハイキング(高尾山)(寮)

10・4 紅葉昼食会(荘)

10・8 合同運動会(世田谷区立総合運動場体育館)(世田谷地区)

地区)

10・18 第17期手話講習会開講(寮)

バスハイク(八景島)(荘)

10・29 文化祭(世田谷地区)

11・1 開園記念式(荘)

11・1・2 一泊旅行(群馬県老神温泉)(友ホ)

11・7・10 散策外出(演芸高校・次太夫堀・向ヶ丘遊園)

(砧デ)

11・8 利用者懇談会(砧ホ)

11・15 釣り(東京湾)(寮)

11・15 利用者家族懇談会(砧ホ)

11・26 宮様チャリティボーリング大会

11・27 自衛消防合同訓練(寮)

12・13 利用者とホームの懇談会(荘)

12・15 年末懇親パーティー(館・園・コ)

12・20 クリスマス会(友ホ)

12・20 クリスマスと年忘れの集い(荘)(砧ホ)

12・20・21 年末お楽しみ会(砧デ)

12・21 餅つき会(友ホ)

12・22 クリスマス会(友デ)

12・23 クリスマス会(寮)

平成8年

1・1 新年会(友ホ)(砧ホ)

1・7 地域もちつき大会(共催)(寮)

1・9・10 新年会(砧デ)

1・10 新年祝賀の集い(荘)

1・12・13 宿泊訓練(南房総)(寮)

1・31・2・1 節分会(砧デ)

2・3 豆まき(友ホ)(荘)(砧ホ)

2・15 社会見学(鎌倉シネマワールド)(寮)

2・22・23 スキー教室(群馬県玉原スキー場)(館・園)

3・3 雛まつり(友ホ)(荘)(砧ホ)

3・4・5 雛祭り(観梅)(羽根木公園・大蔵公園)(砧デ)

3・15 教養講座(館・園)

3・21 春季彼岸法要(友ホ)(荘)

3・29 終了式(友デ)

4・1 開園記念日(砧ホ)

4・4 入所式(友デ)

4・4・5 花見(砧公園、NHK技研)(砧デ)

4・9 ピクニック(砧公園、世田谷区立美術館)(友ホ)

4・10 花見会(荘)(砧ホ)

4・13 お花見会(コ)

4・16 第18期手話講習会開講(寮)

4・21 家族懇談会(荘)

4・23 レクリエーション(砧公園)(友ホ)

4・26 観劇(明治座)(友ホ)

5・5 端午の節句(友ホ)

5・8 端午の節句(砧ホ)

5・10・5 外出(クラインガルテン、砧公園フラワーランド)(砧デ)

5・13 集団屋外訓練(府中郷土の森)(砧ホ)

5・15 若葉昼食会(荘)

5・15 野外食(友ホ)

5・22・23 バスハイク(ビッグサイト・金沢動物公園)(砧デ)

5・26 家族懇談会(砧ホ)

5・29 東京都身障者スポーツ大会(駒沢オリンピック公園総合運動場)(館・園・寮・コ)

5・31 社会見学(池袋サンシャイン)(友デ)

6・3 集団屋外訓練(向ヶ丘遊園)(砧ホ)

6・5 利用者懇談会(砧ホ)

6・5・6 一泊旅行(西伊豆)(友ホ)

6・12 あじさい昼食会(荘)

6・19・28 鑑賞(和太鼓、コーラス)(砧デ)

7・3 利用者とホームの懇談会(荘)

7・7 七夕祭(映画会)(砧ホ)

7・7 七夕会(友ホ)

7・4・5 課外訓練旅行(御殿場・伊東・箱根)(館・園)

7・5 七夕会(友デ)(砧デ)

7・10 七夕祭(荘)

7・19 保護者会(館・園)

7・24・25 盆踊り大会(世田谷地区)

7・27 地域交流盆踊り大会(寮)

7・31 外出(世田谷美術館、向井

潤吉アトリエ館)(砧デ)

8・2 処遇懇談会(館・園)

8・7 クラブ発表会(砧ホ)

8・15 盆法要(友ホ)

8・21 地域交流納涼盆踊りの集い

(荘)

8・22・23 葡萄狩り(調布金子葡

萄園)(砧デ)

9・1 板橋区総合防災訓練(寮)

9・5・18 梨狩り(登戸すみや梨

園)(砧デ)

9・11・13 敬老会(砧デ)

9・14 板橋区身障者スポーツ大会

(寮)

9・15 敬老祝賀の集い(友ホ)

(荘)(砧ホ)

9・16 全国心身障害者芸能コン

クール「愛のステージ」

(明治神宮会館)(館・園)

9・19 芸能大会(府中の森芸術

劇場)(友ホ)

9・25 秋季彼岸法要(友ホ)(荘)

9・30 みんなの音楽会(新宿セ

ブンシテイ)(友ホ)

(注)

館(世田谷更生館)

園(友愛園)

友デ(友愛デイサービスセンター)

寮(東京都ろうあ者更生寮)

友ホ(友愛ホーム)

荘(友愛荘)

砧ホ(砧ホーム)

砧デ(砧デイサービスセンター)

コ(コーポ友愛)

職員異動

平成7・10・2・8・10・1

○世田谷更生館

採用指導員 伊藤俊夫 8・1・1

指導部長 多田金穂 8・3・1

退職指導部長 善家春和 8・2・29

○友愛園

採用指導員 柴田志織 7・12・1

事務員 柿木清美 8・3・1

指導員 関宮メイ子 8・3・1

採用 栄養士 東 千恵 8・4・1

退職 事務員 佐藤容子 8・2・29

栄養士 川邊直美 8・3・31

○友愛荘

採用看護婦 高橋美枝子 8・4・1

退職 〃 根崎幸子 8・3・31

○砧ホーム

採用事務員 田村英治 8・4・1

寮 母 善積裕子 8・4・1

医 師 高橋正司 8・9・1

友愛園より転入

指導員 柴田志織 8・2・1

退職指導員 新中英司 8・1・31

看護婦 岸田みつ江 8・1・31

事務員 越沼裕子 8・3・31

寮 母 小菅わかさ 8・3・31

医 師 高橋一洋 8・8・20

○砧デイサービスセンター

採用寮 父 松原 巧 8・4・1

寮 母 上村珠美 8・10・1

退職寮 母 柏田真紀 8・3・31

寮 母 齊藤真理 8・9・30

編集後記

ある人の言葉で、カキケコの人生を送れば健やかに生きていくという。

力は感動すること。キは興味を持つこと。クは工夫すること。ケは健康(身体に障害を持つていても心が健やかであるというような意)そして、コは恋だそうです。気持ちの持ち方ひとつで、脳はいつまでも若々しくいられるという。



ゆうあい

十七号

平成八年十二月二十五日 発行
発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 石井 晃
〒157 東京都世田谷区砧
三丁目九番十一号
電話 (〇三)三四一六・三二六